

# 女性の力を発揮しよう

## 県連女性部定期大会



松根洋子・女性部長

女性部第37回定期大会を6月16日、同和企業センターでひらき、18支部79人が参加した。

山本昌代・女性対策部員の司会で解放歌合唱につづき、水平社宣言を宮本睦・女性対策部員が朗読した。西本多津子(善明寺)代議員と藪根みさよ(新宮)代議員が議長団に選出された。はじめに、松根洋子・



団結ガンバロー

女性部長から「部落差別によって不当逮捕された石川さんの無実を1日も早く晴らすため、再審に向けて闘わなければならぬ。また、本人通知制度の周知徹底をめざそう」とあいさつをした。

つづいて、池田清郎・執行副委員長、藤本真利子・特別執行委員、山崎良彦・県環境生活部県民局長、矢倉みね代・和歌山市環境局市民部男女共生推進課課長が来賓あいさつした。

2012年度経過報告を竹本雅世・事務局局長が報告し、2013年度活動方針(案)を北内ますみ・副部長が提案し、狭山再審闘争や女性差別撤廃、女性部組織のさらなる強化に向け全員一致で採決された。最後に竹中多恵子・女性対策部員が団結ガンバローをして大会を終了した。

大会終了後、5月18日、19日に名古屋市でひらかれた第58回全国女性集会の報告会をした。

(県連大会2ページより)

古谷紀男・連合和歌山会長、田上武・部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長兼県共闘会議議長、赤松明秀・同和問題にとりくむ和歌山県宗教教団連絡協議会議長、高橋格昭・本願寺鷲森別院輪番、森田順照・同副輪番、坂頭徳彦・自治労県本部執行委員長兼和歌山県職員労働組合執行委員長、上田賢司・和歌山商工会議所事務局長、深真樹・高野山真言宗総本山金剛峯寺社会人権局長、西博義・公明党県本部顧問、堂城浩嗣・近畿大学附属新宮高校、辻健二(社)和歌山人権研究所事務局長、河波潤・関西電力(株)和歌山支店人材活性化課グループ課長、岡田陽平・J-P労働組合和歌山連

と経済成長をめざしているが、すでに株価の乱高下で「円安・株価の高騰で企業業績の回復と賃金の上昇」とした「アベノミクス」の破綻も明らかになっていく。しかも、円安によって

わらず、防衛予算を11年ぶりに増額する一方、今国会では「生活保護法」の改悪がすすめられようとしている。小泉政権のころ、新自由主義のもとですすめられてきた反人権主義・国権主義の復活を許してはならない。

# 主張 部落解放運動が求める政治をおしすすめよう

第23回参議院選挙が7月4日公示、7月21日開票される。参議院選挙の争点は、与野党の「ねじれ」を解消し、政権与党が参議院でも安定多数を確保し、政権の安定を目論んでいる。マスコミ各社の世論調査では自民党の圧勝に終わりそうな雰囲気である。

自民党は、憲法改正とそれを容易にする憲法96条の改正を選挙公約に挙げている。また、原子力発電所の再稼働については、推進姿勢を見せている。東日本大震災の復興はすすまず、福島原子力発電所事故は解決の方策すらみえず、放射能の除去、洗浄すら遅々としてすすん

べノミクス」効果による高い支持率を維持しながら、参議院での与野党の過半数を実現し、その先にある憲法を改悪し「戦争のできる国」づくりを推しすすめている。自民党は「公約」のなかで、デフレからの脱却

パンやマヨネーズ、水産加工品などの食品と衣料品の値上がりがつづき、この夏には電気・ガスなどの公共料金も値上げされ、私たちの生活を直撃している。こうして、格差拡大社会が深刻化しているにもかか

- 協事務局長、鈴木俊男・顧問弁護士
- 〈メッセージ〉
- 中央本部・都府県連
  - 中央本部、愛知県連、兵庫県連、京都府連、奈良県連、大阪府連、香川県連、島根県連、広島県連、長崎県連、佐賀県連
- 〈祝電〉
- 国会議員
  - 二階俊博、石田真敏、岸本周平、鶴保庸介、門博文、浮島智子、世耕弘成
- 議会・各市町村
  - 和田秀教・和歌山市議会議長、高垣幸司・田辺市議会議長、堀龍雄・かつらぎ町議会議長、由良祥治・湯浅町議会議長、南勝弥・白浜町議会議長、大石哲雄・上富田町議会議長、梅野光児・串本町議会議長、長坂隆司・県議会議員、中芝正幸・岩出市長、中村慎司・紀の川市長、木下善之・橋本市市長、望月良男・有田市市長、真砂充敏・由辺市長、田岡実千年・新宮市長、寺本光嘉・紀美野町長、井本泰造・かつらぎ町長、岡本章・九度山町長、木瀬武治・高野町長、上山章善・湯浅町長、森下誠史・美浜町長、中善夫・日高町長、日裏勝己・印南町長、玉置俊久・日高川町長、井潤誠・白浜町長、小出隆道・上富田町長、武田丈夫・古座川町長、田嶋勝正・串本町長、奥田貢・北山村長
- 団体
  - 片山博臣・和歌山商工会議所会頭、裏野勝也・和歌山県平和フォーラム代表

**文化の窓**

**「まんが『慰安婦』レポート」**

**①私は告発する**

橋本徹・大阪市長の発言が記憶に新しい今、真実がここから知ることが出来る。読むに耐えたい場面もあるが、これが真実であることをしっかり知ってほしい。

また「慰安婦」という言葉への違和感から「元日本軍『慰安婦』」という呼称にいたる経過もしっかりとらえてほしい。

著：チョン・ギョンア  
訳：山下英愛  
ISBN978-4-7503-2591-0

問い合わせは、県連・教宣部まで  
TEL 073-473-2301

**狭山事件を 考えよう**

私が初めて石川一雄さんの名前を知ったのは、小学校低学年の頃だと思えます。当時、大阪府岬町の祖母宅に遊びに行くと、近くの銭湯に行くのが習慣でした。その銭湯の近くにセンター(今思うと解放会館か隣保館だったと思います)があり、壁に大きな看板が貼ってありました。「石川青年をとりもどそう!」というスローガンが書かれた看板でした。石川青年って誰だろ?とずっと心に残っていたのが、解放子ども会に参加するようになって狭山事件を知り、石川青年というのが石川一雄さんのことだったんだと合点がいききました。その頃は、悪いことをしていないのに逮捕された人がいるんだな、というくらい知識でした。高校生になると、狭山現地調査に参加する機会もありました。なぜ無実なのに逮捕されなければならなかったのか、なぜ無実ではないことを証明できないのか、と、不思議に思っていました。

現在、県連狭山闘争本部の担当としてさまざまな狭山のとりくみに関わる中で、狭山事件をあらためて知り、学ぶ機会を得て、石川さんが逮捕され、いまなおえん罪に苦しんでいるのは、部落差別によるものだということを確信しています。部落に対する偏見や差別ゆえ、扇動的なマスコミ報道がなされ、部落の人が犯人だという世論が高まり、最後には司法までもが法の下の平等に基づいた判断をできなかった。そして、部落差別がゆえ、教育の機会を奪われ、文字のよみがえりができないことで、一方的に不利な取り調べに感じることになってしまった。ようやく三者協議が始まり、これまでの狭山の闘いに希望が見え始めています。昔見た看板の石川青年はもう70歳をすぎました。「石川さんを取りもどそう!」それは、(恥ずかしいながら)「今で(新井理代)